

## VI 研究実施上の問題点と今後の課題

### (1) 『学習における「公共性」育成プラン』の完成に向けて研究時間の確保

本校の「公共性」というテーマは「人はみな違う」という大前提から出発している。一斉に特定の価値を教え込むのではない教育によって、違いを尊重し民主的な社会認識ができる子どもを育てたい。それには、「公共性リテラシー」を育成するにふさわしい「教材開発」と「教師の意識改革・授業改善」が何より重要である。今後も各学習分野の授業研究を大事にしていく。

このような授業研究は研究開発学校として当然として、考えの異なる教師同士が話し合い、葛藤や対立をのりこえながら自らの（教師の）公共性リテラシーを顧みて実践研究する時間を確保しなければならない。昨今、さまざまな発達課題を抱え支援を必要とする子ども達が増えていることから、日常の教育活動を最優先で大事にする必要がある。その上で学校全体運営の中で研究時間を年間計画の中にかかして十分に確保するか、実践を通しての研究開発である以上、私たち自身の大きな課題である。

### (2) 「公共性リテラシー」の省察・評価方法の開発

今まで、複数の教師による「省察」を、教師の資質や評価力向上のために校内研に取り入れた効果は大きい。目の前の子どもの学びの姿から「公共性リテラシー」を探究・育成するという目的を共有し、真摯に授業研究会＋実践記録＋読む会を繰り返すことの可能性と手応えを得ることができた。

しかし、実践記録を書くことやグループで読むこと、校内研究の進め方には多く改善の余地がある。3年次も複数の教師が知見を合わせることを大切に「省察によるアプローチ」は続けるが、やり方を改善し、「公共性リテラシー」の評価の観点の具体化に向けて、取り組みを深めたい。

### (3) 教育課程全体の評価と見直し

来年は開発研究3年次のまとめになるので、本校の学習分野による教育課程編成がシティズンシップ教育として有効であるか、その教育的な価値を考察していく。その際、外部評価を積極的に取り入れる。

### (4) 子どもと教師の学びのコミュニティ

教育課程を研究開発するという本校の使命の裏には、子どもに「公共性リテラシー」を育む授業改善の努力と同じ重さで、教育者としての教師自身の学びと成長がある。もしそうでないならば、研究開発は机上の空論となり、新しい教育課程も絵に描いた餅となる。

幸いなことに私たちは、校内研究を通して教師の変様や学びをつくり出す手応えを得ることができた。さらに子どもの発達と成長を支える研究を推進し、学びのコミュニティとしての学校をつくっていききたい。